

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの 夕ネまき 新聞

No.583

資福寺のあじさい〈宮城県〉

伊達家ゆかりの五つの寺院「北山五山」のひとつ、慈雲山資福寺。境内に1200株ものあじさいが植えられていることから、「あじさい寺」とも呼ばれています。6月下旬からの見ごろには、山門へと続く石段の参道沿いや庭園に美しい花が咲き誇ります。



イラスト：歎崎 花鈴

※イラストはイメージです



伊達政宗騎馬像。彫刻家・小室達が政宗の300回忌にあたる1935年に制作。政宗が仙台城に入城した姿と言われている

〈目標を持つ〉

あと数年で創業五十周年を迎えられる加盟店のオーナーと対話しました。その方は、学生時代に「学校を卒業したら自分の会社をつくる」と決められ、その後、目標通りに二十歳でフランチャイズ加盟店として起業されたそうです。そして今日に至るまで、地道に事業を成長させてこられました。

今どこそ飲食業やコンビニエンスストアなど多くのフランチャイズビジネスが存在しますが、五十年ほど前はあまり認知されていませんでした。そんな時代に、新聞の片隅の小さな募集広告を見て説明会に参加され、二十歳という若さで起業されたのです。その実行力に感服すると同時に、二十歳の頃の自分と照らし合わせて、今更ながら「もっとしっかりとした目標を持っていれば」と反省しました。

その方の経営理念は「地域で生まれ、地域で生かされ、地域と共に育ち、地域で美しい花を咲かそう」というものです。実際に、周囲からの依頼を積極的に引き受けて地域貢献を続けておられ、まさに地域に根差した会社を築かれています。

年齢や生活環境にかかわらず、人は常に目標を持つことが大切なのだと思えます。もちろん目標を達成することが目的ですが、一生懸命に努力する過程が人間の成長につながるのだと感じました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

長浜に暮らす 人々の架け橋に



日本は
ひろいな
おいしいな



「すごい！」がいっぱい
当たり前前の生活の中に

長浜市は琵琶湖の北東、「湖北」地域にある琵琶湖と山々に囲まれた場所。平成18年と22年に8つの町を合併し、滋賀県では高島市に次ぐ2番目の広さとなっています。合併をしたことで、住まう人の利便性はもたらん、全国的な認知度も高まりました。

でも、その広さゆえに長浜地域が有する伝統や文化の多様性がさらに広がり、自分が住む町の文化や風習は知っていても隣町のことは何も知らないという人が増えたのも事実。そんな各町や集落ごとの、長い歴史に育まれた「長浜の暮らし」の魅力を発信しているのが『長浜生活文化研究所』の皆さんです。

研究所の所員がウェブサイトをを通じて紹介する伝統行事や風景は、観光情報とは一味違うものばかり。同じ五穀豊穡を願う祭でも集落ごとにスタイルが違ったり、鮎寿司を普段の家庭料理として作っている人が登場したりと、「同じ長浜にこんな文化があったんだ！」という発見



月に一度、企画会議を開いて特集の内容を決めている

がみつっています。取材先の人にとっては当たり前のことばかりなので、「こんなことが記事になるの？」と不思議がられるそうですが、それこそが長浜ならではの多様な「暮らしぶり」。紹介されたことで「これは長浜独自の文化だったのか」と改めて気づき、文化を守ってきたことを誇りに思う人も多いそうです。また、記事の内容に惹かれて、伝統文化や工芸、料理などを学ぼうと若い人も市の内外から集まってきているのだとか。接点が少なかった高齢者と若い人の文化継承の架け橋にもなっているのが、この研究所なのです。

住まう人も知らない 湖北の魅力を発信

所員は「長浜は地域資源も文化も豊富で、切り口には事欠かない。山や田畑など、見慣れた光景にも湖北らしさがある」と、ウェブサイトで発信以外にもいろいろなワークショップを実施しています。例えば長浜市の市民活動団体と協力して開催した「月光が照らす湖北」の撮影会。月明かりに照らされた湖北の風景は、集まった人たちを「毎日見ている景色がこんなにきれいだななんて知らなかった」と魅了しました。また、日常のひとコマを高校生ライターらの若々しい視点で紹介してもらいな

ど、市民自ら長浜の良さを伝えるさまざまな試みも行なっています。さらに、所員が「冊子なら、より多くの人に手にとって見てもらいやすくなる」と長浜の風景や行事、暮らしぶりを紹介した冊子も今年2月に完成。何気ない日々のワンシーンを切り取っているながら、やはりそれは長浜にしかない魅力あふれる内容になっています。

「こんなにすごい人が長浜にいるんや」「こんなにきれいな風景があったんやね」と住む人も、また、この町を旅したいと思っている人の心にも響く、魅力いっぱい長浜。「この地に住んでいることに誇りを持ってほしい。埋もれかけている文化や魅力を伝える架け橋になりたい」と、長浜生活文化研究所の所員たちがあちこち取材して回る日々はこれからも続きそうです。

月光に浮かぶ長浜の風景もまた美しい



長浜の魅力を紹介する冊子を一丸となって制作したスタッフの方々



滋賀県の 郷土料理

泥亀汁の作り方

ゴマをたつぷり入れた汁に浮かぶナスを亀に見立てた泥亀汁。ゴマが貴重な食材だった江戸時代から伝わる郷土料理で、近江商人が夏バテ予防に食べていたと伝わるスタミナ食です。



- 材料(4人分)
- ナス..... 2本
 - 生ゴマ..... 60g
(なければ炒りゴマでも可)
 - だし汁..... 3カップ(600cc)
 - 味噌..... 大さじ2.5

作り方を教えてくれた人



湖北町食事文化研究会 代表
肥田 文子さん

16代続く伊部宿本陣の家に嫁ぎ、幾世代もの人々が伝えた滋賀の伝統食を忘れぬうちに残したいと、レシピ本の発刊やワークショップなどを行っている。

-
-
-
-
-

フライパンなどでゴマを炒る。ゴマがふっくらとして、香ばしい香りが出るまで弱火でじっくりと。

炒ったゴマをすり鉢でする。ゴマの栄養を引き出すためにも、細くなるまで丁寧にする。

ナスは縦半分に切り、亀の甲羅のように皮へ斜め格子に切れ目を入れる。さらに水につけてアクを抜く。

出汁の中にナスを入れて煮る。沸騰したら弱火に。ナスが柔らかくなったらゴマを入れる。

最後に味噌を溶いて入れ、ひと煮立ちさせたら完成。

えがおで暮らせば

新たな人との出会いには喜びや楽しみがいっぱい。けれども一方で、人付き合いの難しさを感じることも。今回は、坂井より子さんが良好な人間関係を築くためのヒントを教えてくださいました。

第十一話

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山町在住。主婦歴40年の経験を生かした、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行っている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。

ご縁に感謝

出会う喜び

春から新しいことを始めた方は、そろそろ環境にも慣れてきた頃でしょうか。新たな仲間とも少しずつ打ちとけて、同じ時間を共有する楽しさを感じていることと思います。いくつになっても人との出会いは特別なものですよね。

私がお手伝いしている「親子教室」でもたくさんのお母さんがいます。お母さん同士が子育ての話で盛り上がりつつある姿を見ると思わず笑顔になりますし、私自身、若いお母さんたちとお友達になれるのは本当にうれしいです。

若いお友達とは生まれた時代も育った環境も違うので、価値観の差に驚くこともあります。私にとってはそれも新たな発見。一緒にショッピングへ出かけたりすると「そんな見方もあるのね!」と感心したりして、とても楽しいですよ。



若いお友達と、ご自宅の近所にある工芸品のお店でショッピング



お互いを尊敬し合い、いつもおだやかな坂井さんご夫婦



いつ誰が遊びに来てくれても良いように、おもてなしの茶菓子はいつも準備してある

いろんなお友達の輪が広がると、楽しみがどんどん膨らみます。でも、時に人付き合いの難しさを感じることもあつて、時々お母さんたちからそんな相談を受けます。私も偉そうなことは言えませんが、過去の経験や心掛けていることなどをお伝えしています。

言葉選び

人付き合いの中で私が大切にしていることのひとつは「言葉選び」です。子どもたちが幼稚園の頃、園で開催するおはなし会の参加者が予定より少なかったことがありました。私は係の者として申し訳なく感じてしまい、「これだけしか集まらなかつたんです」とお伝えしたのですが、園長先生は「こんなに集まってくたさつたんですね」とうれしそうに言ってくたさつたのです。そこでハッとしました。

ただ「か」なんて失礼ですよ。これだけの人が気持ちよく集まってくたさつた。私もそんな風に物事を受け止めたいと感じました。同じことを伝えていても言葉ひとつで受け取る印象はまったく違うものなんです。それからは、子どもに対しても「お手伝いしてちょうだい」ではなく「お手伝いお願い。助かるわ」など、できるだけ前向きな言葉を選ぶようになりました。すると、子どもたちの反応もいよいよ変わってきました。言葉の力って大きいんですよね。

私も日々いろんな言葉を使いますが、一番意識しているのは「ありがとう」の言葉です。例えば家族の誰かが掃除機がけをしてくれた後には必ず「ありがとう」と伝えますし、家族も私が食事を出すたびに「ありがとう」と言ってくれます。

当たり前のことですが、家族間・夫婦間ではついつい忘れがちになる「感謝の気持ち」を伝え続けてきたことが、今の家庭円満につながっている。

違って当たり前

言葉遣いやあいさつなど人付き合いの基本を心掛けていても、なんとなく苦手だと感じる人もいますよね。でもそれは当たり前。個性も相性も十人十色なんです。ただ、私は人の悪口を言わないようにしていますし、誰かの言う悪口には否定も肯定もしないようにしています。自分の尺度で物事を測って良し悪しを言うのはおかしいと思うからです。価値観や相性は人それぞれ。そう考えると人付き合いはずいぶん楽になりますよ。

世の中にたくさんの方がいる中で、ご縁があつて出会い、仲良くなれた人たちは、ずっと良い関係を続けていきたいですよ。私も今までのご縁に感謝しながら、これから新たに出会うご縁も大切に育んでいきたいと思っています。

より子さんのノート

心を伝える手書きの言葉

ほんの少しの心遣いで、良い関係は続いていくもの。坂井さんが普段から行っているという「心遣い」を二つ紹介します。

1 お礼状を書く
何かのお礼はメールで済ませるのではなく、できるだけ手書きで。心からの気持ちが伝わります。

2 素敵な言葉をストック
心に響く言葉に出あったら、忘れずにメモを。見返すと新たな気づきや人付き合いのヒントになることも。



未来ある子

香川県さぬき市 秋友京子さん

親戚の小学1年生の男の子は幼稚園の年中から囲碁を習い始め、卒園時には大会に出て優勝したそう。

私が実家に帰省した時には対戦しようね、と言っておいたら、小さな携帯用の囲碁セットを持参してくれて、先日初めて対戦しました。

「この一隅もう死に石だよね?」と聞くと、「ウン」とうなずくなど、やっていくうちにこの子が先を読める子だとわかりました。最後の石の数読みもしっかりしてくれて、94目の負け!私の完敗でした。

彼は得意顔でニコニコ!悔しいけれど、未来ある子が羨ましく思えた1日でした。

将来有望な男の子ですね。
これからの成長も楽しみ!



娘ができた喜び

北海道札幌市 高谷 範子さん

2泊3日の伊勢・南紀の旅に友人と行ってきました。1日中、美しい海や景色を見てまわり、おしゃべりもして、楽しい旅でした。

途中で参拝した神社ではピンク色のかわいらしいお守りを見つけ、結婚したばかりの長男のお嫁さんにお土産として渡しました。

「早速、バッグにぶら下げましたよ」とお嫁さんからお礼の電話をもらい、初めて娘ができた喜びを感じました。

やさしい心遣いに、
お嫁さんも嬉しかったと思います。



折り紙

山梨県南アルプス市 中村 恵さん

たまたまテレビ番組を見ていて、「人とのコミュニケーションの中に折り紙を採り入れたらどうだろう?」と思い立ちました。

テレビ番組で紹介していた「蛙」や「金魚」といったものが作りやすそうだと思えたため、後日作ってみました。そして出来栄えに満足できたことから、折り紙の本を購入して次々と折ってみることに。今では少し難しい「季節ごとの行事」なども折れるようになりました。

出来上がった作品を人にプレゼントして喜ばれたり、一緒に折ったり、折り紙を通して交流を図っています。それは私の心の励みとなり、元気へとつながっています。

折り紙って、
心の温かさが伝わりますよね。



野菜直売所

岐阜県中津川市 村上美津子さん

友人たちと豊かな自然の中を散策した帰り道、野菜直売所へ立ち寄りしました。

平台の上に並んでいるさまざまな種類の野菜の中に、虫食い穴がポツポツある葉もの野菜を見つけました。

野菜を売っているおばあさんに「これ、安全な野菜の証ね」と声をかけると、「無農薬だから身体に良いよ。たくさん食べておくれや」と答えてくれました。おばあさんとの温かいやりとりの中で、みんなの顔に笑みがこぼれました。

新鮮で身体に良い野菜が手に入り、うれしい1日になりました。

愛情を込めて作られた新鮮な野菜は、
きつと味もおいしいんですよ。



母のちまき

鹿児島県薩摩川内市 徳永博江さん

桜が散り、若葉があざやかに目を楽しませてくれるこの時期になると、無性に食べたくなるものがある。それは、母のちまきだ。

今年は父の体調が良くないので、たぶん母の手作りちまきは食べられないだろうと思っていたが、忙しい中でも母はちまきを作っていた。

出勤前、「ちまきを作ったから、取いけこんけー」と母から連絡があり、早速、仕事帰りにもらいに行った。母いわく、「作れるうちは作ってお」とのこと。今年もいつものちまきを食べられて良かった。まだまだ甘えさせてね。

手作りの母の味は、
何よりのごちそうですよ。



親友

神奈川県川崎市 清水 年子さん

私は90歳、大の仲良しは88歳。子どもの小学校のPTAで知り合ってから、50年の付き合い合いになります。

お互いに東京の山手線沿線で生まれ育ちました。思い出話や子どもの頃の歌など、共通の話題ですぐに意気投合し、これまで気分を壊すとか、話の行き違いなどはただの一度もありません。お互いの生活の中に踏み込みすぎず、きちんと一線を引いて付き合ってきました。

最近はお宅へ伺っておしゃべりを数時間楽しんでおり、よくもまあ話の種が尽きないものだと娘が感心しています。近頃、私も彼女も耳が遠くなってきました。大きな声でのおしゃべりがいつまで続くことでしょうか。頑張らなくては。

50年も仲良しだなんて、
ステキな関係。

燈々無尽

愛を捧げる喜び

わからなくてもいい
きらわれてもいい
ゆるしてほんでいい
私はあなたが好きだ
そして、あなたのために
どれだけのことができるのか
私にやらせて下さい
それだけでいい
惜しみなく愛を
捧げてみたい!

鈴木清一



「共用品」を ご存知ですか?

共用品は、年齢や障がいのあるなしに関わりなく、より多くの人を使いやすく工夫された製品のこと。代表的なものとして、手で触っただけで分かるように缶の上部に点字で「お酒」と書かれた缶ビールや、他の飲み物と区別するため上部に切り欠きを入れた牛乳パックなどがあります。今では当たり前となっている製品の中には、分かりやすさや扱いやすさ、安全性などに配慮された共用品の工夫から生まれたものも多



いんですね。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎06-6821-5270 <http://www.ainowa.jp/>



あなたのお便りや写真をお寄せください。

みなさまからお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。

どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

株式会社ダスキン広報部

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集部

e-mail : koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

どう、似合ってる？

福島県郡山市
大浪 瞳さん



みてもらおう!

読者のみなさまから
お送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。

愛知県名古屋市
矢野 れいこさん

きれいなハート形でしょ？



一緒に
お買い物

新潟県新潟市
近藤 裕美さん

上手に
オカリナ
作れたよ!



何見てんのよ!

岡山県和気町
竹中 夏子さん



もう、お腹いっぱいだよ……
ズズズ

福岡県飯塚市
野中 友香さん



茨城県牛久市
二川 奈緒子さん

No.420からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか?!

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてくださいね!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp